

大学ICT推進協議会(AXIES)2025年度年次大会を終えて

Post Conference Report on AXIES 2025 Annual Meeting

AXIES 2025 年度 年次大会大会長/北海道大学副理事・情報基盤センター長教授 棟朝 雅晴

Masaharu Munetomo, General Chair of AXIES 2025 Annual Meeting, Vice Executive Director, Director of Information Initiative Center and Professor of Hokkaido University

ORCID ID : <https://orcid.org/0000-0002-5750-9217>

1.はじめに

2025年度の大学ICT推進協議会年次大会は、札幌コンベンションセンター(写真1)において、2025年12月1日から3日に開催されました。登録者総数2,129名、来場者数累計4,548名と、冬の時期の開催にも関わらず多くの皆様にご参加、ご講演、ご出展をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

開催にあたり、私が大会委員長を務めさせていただきましたが、実務については副大会委員長の布施泉先生(北海道大学)、実行委員長の重田勝介先生(北海道大学)を中心にご対応をいただき、プログラム委員長を升井洋志先生(北見工業大学)にお願いするとともに、室蘭工業大学、公立はこだて未来大学を含む北海道地域の大学が一丸となって多くの皆様にご協力をいただきました。さらに、昨年度の年次大会開催にあたり多岐にわたる実施面の改善をいただき、今回もアドバイザーとしてご指導をいただきました京都大学の皆様、来年度開催予定の広島大学の皆様、プログラム委員会を中心として全国の関係する大学の皆様に多大なるご協力をいただきました。基調講演を引き受けてくださった先生方、多大なるご支援をいただきました協賛企業の皆様、助成金のご支援をいただきました札幌コンベンションビューロー、運営を支えてくださったAXIES事務局、学生アルバイトの皆様を含め、本大会にご協力いただきました全ての関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

7年ぶりに北海道での開催となる今年度年次大会のキャッチフレーズ「Hokkaido. Expanding Horizons with ICT.」は、北海道のキャッチフレーズ「その先の、道へ。北海道」の英訳「Hokkaido. Expanding Horizons.」を引用しています。生成AIに代表される近年のICT技術の急速な発展により、まさに社会の「新たな地平」が切り開かれようとしています。先端的な研究を推進し、社会に高度人材を送り出す高等教育を担う大学の果たすべき役割は、ますます重要になっています。

このような状況下において、大学におけるICT利用の新たな地平を切り開くべく、準備を進めてまいりました。会場の札幌コンベンションセンターは市内最大規模の会場ではありますが、前回実施時においても手狭となりつつありました。今回は全館貸切の形を取らせていただきましたが、今後さらに規模が拡大した場合には検討が必要かと思えます。運営システムについては、昨年刷新したものを基本として、これまでの経験を踏まえ、運用面でいくつかの工夫、改善を行い実施させていただきました。会場のネットワーク環境構築につきましては、シスコシステムズ合同会社、さくらインターネット株式会社よりご協力をいただき、先生方や学生さんを含む関係者のご尽力により安定した接続環境をご提供いただきましたこと、深く御礼申し上げます。

2.大会プログラム

2.1 概要

本大会は、文部科学省からのご講演ならびに2つの基調講演を含む全体会、一般発表、企画セッション、協賛セミナー、ランチョンセミナー、オープニングギャザリング、情報交換会により構成され、口頭発表が119件、ポスター発表が38件、さらに展示会場においては104機関からブース展示をいただきました。各会場とも非常に盛況となり、オープニングギャザリングや情報交換会へも多くの皆様にご参加をいただき、交流を深めていただくことができました。

2.2 全体会と基調講演

全体会については、昨年に引き続き1日目と2日目に分け、分散開催とさせていただきました。1日目の全体会においては、大会委員長挨拶、AXIESの概要紹介に続き、文部科学省高等教育局専門教育課の今川新悟専門官より、大学等における数理・データサイエンス・AI教育の推進について、ご講演をいただきました。次いで、1件目の基調講演として、北海道大学副学長・総合イノベーション創発機構・特任教授の西邑隆徳先生よ

り「北大フィールド研究 DX を基盤とするリジェネラティブ農林水産研究の展開」のタイトルで、フィールドサイエンスを基盤とした地球環境を再生する新たな持続的食料生産システムの構築と展開をテーマに、幅広い取り組み内容についてご紹介をいただきました（写真2）。

2日目の全体会においては、会長挨拶に引き続き、来賓として文部科学省の今川新悟専門官からご挨拶をいただきました。次いで、EDUCAUSE President & CEO の John O'Brien 博士に、「The EDUCAUSE “Top 10” and Implications for 2026」のタイトルにて基調講演をいただきました（写真3）。本講演では、EDUCAUSE が毎年発表している、高等教育における ICT に関わる “Top 10” についてご紹介をいただくとともに、関連する技術や課題等について丁寧に説明をいただきました。基調講演の字幕につきましては、パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社から、同時通訳ソフト「Wordly」のご提供をいただきました。引き続き、2024 年度年次大会論文賞等の表彰式が開催され、その後 AXIES 各部会を紹介し、最後に 2026 年度年次大会のご案内をさせていただきました。

2.3 一般発表・企画セッション・ポスター展示

23 件の一般発表が開催され、119 件の口頭発表を通して、活発な情報交換がありました。セッション時間帯の重複により聞きたい講演が聴講できない状況に対応するため、コレオス株式会社から「Kaltura」のご提供をいただき、大会終了後に一般発表のアーカイブ配信をさせていただきました。

企画セッションにつきましては、AXIES の各部会が企画するセッションのほか、国立大学法人等情報連絡協議会から事務用業務システム改善事例発表、EDUCAUSE 年次カンファレンス 2025 参加報告に加え、会長企画として協賛企業のみなさまから忌憚ないご意見をいただく「賛助会員が AXIES に期待するもの～会長と語ろう！～」を含め、計 21 件を開催いたしました。

ポスター展示につきましては 38 件の発表がありましたが、1 日目の夕方、オープニングギャザリングの直前に、ポスター発表コアタイムを設定させていただき、多くの皆様に熱心にご議論をいただくことができました。

2.4 展示会・協賛セミナー・ランチョンセミナー・CIO 昼食会

展示会場においては 104 機関（正会員：8 機関、賛助会員：69 機関を含む）からブース展示をいただきました。協賛企業の展示におきましては、企業等が提供されている高等教育機向けソリューションや活動をご紹介

いただき、さらに、協賛セミナー 22 件、ランチョンセミナー 15 件も含め、正会員からの参加者にとって有益な情報をご提供いただきました。

また、各大学の CIO と協賛企業との交流を深めていただくため、コンベンションセンター内に会場を確保し、CIO との昼食会を開催しました。

2.5 オープニングギャザリング・情報交換会

初日のオープニングギャザリングでは、参加者の展示ブース立ち寄りを促進するために、スタンプラリーに使える専用チケットを用意して、配布しました。

2日目の夜に、札幌プリンスホテルにおいて情報交換会を開催しました。コンベンションセンターから離れているためバスを手配させていただきました。会においては、北海道大学の農場において栽培された酒造好適米を原料として製造された純米酒「奥智（おくち）」と、果樹園において収穫したリンゴを原料としたシードル「玲瓏（れいろう）」も提供させていただきました。情報交換会については、800 名を超える多くのみなさまにご参加をいただき、大変盛況となりましたが、一方で会場の制約により大変混雑してしまった点についてお詫び申し上げますとともに、今後の課題として検討をさせていただきますと存じます。

3. おわりに

多くのみなさまのご協力に支えられ、年次大会を無事終えることができましたこと、深く御礼申し上げます。今後に向けまして、皆様からいただきましたアンケートの結果なども踏まえつつ、運営面の改善を図って参りたいと存じます。

2026 年度の年次大会は、広島大学が主幹校となり広島市で 2026 年 12 月 9 日～11 日に開催される予定です。次回年次大会へ多くの皆様にご参加をいただき、有意義な会となることを祈念しております。

2026 年 2 月 16 日



写真1 札幌コンベンションセンター(左:1日目,右:3日目)
* AXIES facebook (<https://www.facebook.com/AXIES.JP>) ページより転載



写真2 北海道大学 西邑副学長による基調



写真3 EDUCAUSE オブライアン会長による基調講演

【著者略歴】



棟朝 雅晴

北海道大学副理事・情報基盤センター長・教授。

1996年北海道大学大学院工学研究科情報工学専攻博士課程修了。北海道大学大学院工学研究科助手。

1998年～1999年 Visiting Scholar, University of Illinois at Urbana-Champaign. 1999年北海道大学情報メディア教育研究総合センター助教授。2003年同大学情報基盤センター助教授。2007年同准教授。2012年同教授。2019年同センター長。2024年同大学副理事(情報・DX)。2017年～2021年に本会理事を務める。2020年～2022年進化計算学会会長。2017年～2019年情報処理学会北海道支部長。さらに同学会の研究会主査, トランザクション編集委員長等を務め, 2023年同学会コンピュータサイエンス領域功績賞受賞。専門は進化計算, メタヒューリスティクスなど近似最適化アルゴリズム, クラウドコンピューティングなど並列分散処理。